

スクラップ記事

広島県

言葉

壹

乗斤

陸月

2000年(平成12年)10月16日(月曜日)

50匹以上のウサギが死んだウサギ小屋 (三原市の市立沼田東小で)



三原市立沼田東小(杉森義人校長)で、飼育していたウサギが、劣悪な飼育環境のため、昨年十一月から五十四匹以上死亡。改善を求めた保護者に、学校側は「子供たちに、自然の厳しさを教えるため、このままがいい」と回答していたことが、十五日分かった。親の抗議で今年三月に避妊手術をし、事態はようやく収まったが、教育評論家は「教育問題に対する替え玉奇弁。単なる動物虐待に過ぎない」と、学校側の対応を批判している。

ウサギ50匹以上死亡

三原の沼田東小

「自然の厳しさを教える」と放置

同校などによると、動物愛護精神を養おうと約十年前からウサギを飼育。広さ六平方メートルの小屋で雄雌一緒に育てていた。繁殖が盛んになって、一九九九年秋には三十四匹以上がひしめき、子ウサギが死に始めた。その度に児童は小屋裏に埋葬。一度に十四匹近く埋めたこともあった。見かねた母親(41)が同年十一月、雄雌別に育てるやうに避妊手術で繁殖を抑えるよう校長に要望。今年一月には当時の六年女児が山本清治市長に「もう整理りは嫌です」と手紙を送った。学校側はいったん避妊手術を約束したが、校長が子供たちに自然の厳しさを教えるため、このままがいい。ウサギで生かす死までを見ている」と母親に回答。母親の抗議で三月初めに避妊手術が行われたが、生き残ったのは七匹だった。母

親が抗議 遅ればせら 避妊手術

親は「むごい死を故意に見せる必要があったのか」と怒っている。広島市立安佐動物公園は「ウサギはストレスがたまるとう育てを放棄することもある。雄雌別に育てるか避妊手術をするしかない」と話す。市教委の元広賢吾・学校教育課長は「結果的に配慮が足りず、児童に悲しい思いをさせた」と話し、杉森校長は「多くの死を見せるのは教育ではなかった。費用面の問題もあって対策が遅れた」と釈明している。教育評論家の尾木直樹さんの話「ウサギの飼育は、命を守っていくことの大変さを知るため、『自然の厳しさ』というが、単なる動物虐待で、死についての教育ではない。どうしてんなずれた教育がされるのか。信じられない話で、あきれて言葉もない」

新聞記事切り抜き画像 http://www.ddt.or.jp/~jn4bnl/kure/nutahigashi.jpg

このファックスニュースが不要の際や不適切にお届けされた際には大変お手数ですが下記までご連絡いただくと幸いです。不要の際の返信先Fax.03-3350-6440 AWN連絡会係

ファックス不要チェックBOX

貴団体名